

第40回原産年次大会の開催について

平成19年2月27日
社団法人 日本原子力産業協会

日本原子力産業協会は「第40回原産年次大会」を下記の日程で開催いたします。

記

1. 会 期：平成19年4月9日(月)～12日(木) (4日間)
2. 会 場：ホテル青森 (青森県青森市)
3. 基調テーマ：「原子力立国日本をささえる燃料サイクル
――平和利用促進と核不拡散の調和を世界へ」
4. 構成と内容：別添プログラムをご参照ください。
(大会当日まで変更が生じる場合もあります)
5. 募集の種類・参加費
 - ①有料枠 (一般企業・原子力関係企業等の役職員等) 46,000円 他
 - ②無料枠 (一般市民・教職員・学生・主婦等に限定)
6. 添付資料
 - ・第40回原産年次大会 プログラム (案)
 - ・第40回原産年次大会 セッション内容 (案)
 - ・第40回原産年次大会 準備委員名簿
 - ・第40回原産年次大会の取材について
 - ・第40回原産年次大会 事前登録申込書
 - ・会場案内
7. 本資料配布先 (順不同)
青森県政記者会、文部科学記者会、科学記者会、
経済産業記者会、経済産業ペンクラブ、エネルギー記者会

<お問い合わせ先>

(社)日本原子力産業協会 政策本部 加藤

〒105-8605 東京都港区新橋2-1-3 新橋富士ビル5F

TEL 03 (6812) 7101

FAX 03 (6812) 7110

e-mail kato@jaif.or.jp

以 上

◆ 原産年次大会とは

原産年次大会は、日本原子力産業協会がその主要事業の一つとして昭和43年(1968年)以来開催している国際会議で、毎年国内外から約1,000名の参加を得ております。本大会は、エネルギー・原子力の平和利用上の重要な問題について、国内外の専門家を中心とする意見の発表、重要課題とその解決策を見出すための討論を行うとともに、原子力研究開発利用の進め方について国民の理解促進に資することを目的としております。

また平成6年以来、本大会をより開かれたものとするため、原子力関係者だけでなく、広く一般市民の方々にも積極的に参加を呼びかけています。

◆ 第40回大会について

日本原子力産業協会は、主要事業の一環として、国内外の関連分野から広く関係者の参加を得て、毎年春に「原産年次大会」を開催しています。年次大会では、多数の海外関係者から世界の生の最新情報を伝えてもらうとともに、日本の原子力産業界の現状や将来計画を各国関係者に知ってもらい日本に対する意見を受信するなど、双方向コミュニケーションにも最適の機会となっています。

今日の世界のエネルギー事情や地球環境問題に鑑みると、原子力発電の利用を進めるとともにウラン資源の有効利用をはかることが、今後ますます重要となってきました。特に、資源の乏しい日本においては、資源の輸入依存度を大きく低減させる燃料サイクルの確立は急務といえます。中でも、燃料サイクル事業の要となる再処理については、平成19年11月に六ヶ所再処理工場の本格操業を控えており、あらためて原子力産業界は、燃料サイクル完結に向け強い決意でその推進に取り組むことが必要です。

このような状況を踏まえ、第40回大会は、原子力発電所および燃料サイクル施設が立地し、わが国の原子力にとり重要な役割を果たしている青森県において開催します。青森県とともに日本の原子力産業が着実に発展し、世界の原子力平和利用が拡大する上での課題を取り上げ、大会参加者の方々の間で認識を共有することとします。

◆ 社団法人 日本原子力産業協会について

日本原子力産業協会(略称:原産協会、会長:今井敬 日本経済団体連合会 名誉会長、新日本製鐵 名誉会長)は、平成18年4月、日本原子力産業会議が創立50周年を迎えたのを機に改組し、「自ら戦略的に行動する団体」として名称を変更、再出発いたしました。

原産協会は、わが国のエネルギー問題における原子力利用の重要性を踏まえ国民的立場に立って原子力の平和利用を進めるとの産業界の総意に基づき、多岐にわたる民間産業界の中核として、直面する課題の解決に向けて主体的に行動することを目的とする公益法人です。また、政府の行う原子力開発利用計画の策定と政策の推進に協力し、原子力の平和利用を促進することによって、わが国の国民経済と福祉社会の健全な発展向上に資することを目指しています。

第40回 原産年次大会 プログラム (案)

基調テーマ：原子力立国日本をささえる燃料サイクル
 ——平和利用促進と核不拡散の調和を世界へ

開催日：平成19年4月9日(月)～4月12日(木)

場所：ホテル青森「孔雀の間」

年次大会		IAEAシンポジウム (主催:IAEA、共催:日本政府・原産協会)	年次大会
4月9日(月)	4月10日(火)	4月11日(水)	4月12日(木)
テクニカルツアー Aコース 日本原燃・六ヶ所施設 Bコース 東北電力・東通原子力発電所	開会セッション (9:30～11:00)	オープニング (9:30～10:30)	セッション2 (9:30～12:30) 今後、原子燃料は 安定的に供給されうるか
	特別講演1 (11:15～12:00)	原子力発電と 核燃料サイクル (11:00～13:00)	
	午餐会 (12:15～14:00) (青森グランドホテル)	昼休み (13:00～14:30)	昼休み (12:30～13:45)
	来賓挨拶 (14:15～15:00)	安全とセキュリティ (14:30～16:30)	セッション3 (13:45～16:15) Locally and Globally ——青森が世界の 原子力に果たす役割
	特別講演2 (15:00～15:30)	核不拡散 (16:30～17:10)	
	セッション1 (15:30～18:00) 拡大する世界の原子力発電 と原子力産業メイン プレーヤーの展望	円卓会議 (17:30～18:30)	大会ステートメント
	レセプション (17:30～19:00)		
学生セッション (12:15～14:00) 主催：日本原子力学会 学生連絡会			

第40回原産年次大会 セッション内容（案）

【基調テーマ】

原子力立国日本をささえる燃料サイクル
——平和利用促進と核不拡散の調和を世界へ

レセプション 4月9日（月）17：30～19：00

開会セッション 4月10日（火）9：30～11：00

議長：高橋 宏明 東北電力(株) 社長

【所信表明】

今井 敬 (社)日本原子力産業協会 会長

【大会準備委員長挨拶】

遠藤 正彦 弘前大学 学長

【講演】

三村 申吾 青森県知事

近藤 駿介 原子力委員長

特別講演 1 4月10日（火）11：15～12：00

地球環境問題の重要性の観点から、ここでは地球温暖化に関する専門家より講演をいただき、広い視点での原子力の役割について考え、以降のセッションの議論に資する。

議長：中垣 喜彦 電源開発(株) 社長

「地球環境をみつめる——気候変動に関する最新の知見をもとに」（仮題）

ラジェンドラ パチャウリ 気候変動に関する政府間パネル 議長

午餐会 4月10日(火) 12:15~14:00

(会場：青森グランドホテル「平安の間」)

【特別講演】

青森県固有の文化である津軽三味線について、地元の専門家よりその歴史や魅力をお話しいただき、青森県に対する理解を深める機会とする。

「津軽三味線のルーツ」(仮)

大條 和雄 日本民謡文化振興協会 名誉教授・理事、
全日本津軽三味線友の会 会長

学生セッション 4月10日(火) 12:15~14:00

(主催：日本原子力学会 学生連絡会)

<企画案>

原子力産業界の技術者・研究者と原子力専攻の学生等で意見を交わし、原子力産業界に対する学生の認識向上と広く原子力の発展に資することを目的とする。

来賓挨拶 4月10日(火) 14:15~15:00

議長：遠藤 正彦 弘前大学 学長

伊吹 文明 文部科学大臣 (依頼中)

高市 早苗 科学技術政策担当大臣 (依頼中)

甘利 明 経済産業大臣 (依頼中)

特別講演2 4月10日(火) 15:00~15:30

議長：鈴木 篤之 原子力安全委員長

「再興する米国の原子力発電と原子力安全規制の将来展望」(仮題)

デイル クライン 米国原子力安全規制委員会(NRC) 委員長

セッション1

4月10日(火) 15:30~18:00

「拡大する世界の原子力発電と原子力産業メインプレーヤーの展望」

世界における原子力発電計画の拡大傾向に呼応するように、昨今、企業の合併・事業提携を含め原子力産業の動きが活発化している。国際化していくこれら巨大企業は、今後の原子力開発において大きな役割を果たしていくものと考えられる。

このセッションでは、世界的な原子力産業のメインプレーヤーが原子力の将来をどのように展望しているのかを示し、今後の原子力発電市場への戦略等を紹介する場とする。

議長：勝俣 恒久 東京電力(株) 社長

【基調講演】

「国際エネルギー情勢と原子力への期待」 (仮題)

寺島 実郎 (財)日本総合研究所 会長

講演者：

アンヌ ローベルジョン アレバ社 会長

セルゲイ キリエンコ ロシア原子力庁 長官、元 ロシア連邦首相

アンドリュー ホワイト GEニュークリア・エナジー社 社長

庭野 征夫 (株)東芝 副社長、東芝ニュークリアエナジー米国社 会長兼社長

国際原子力機関(IAEA)設立50周年特別シンポジウム 4月11日(水)

「原子力エネルギー：未来に向けた世界の挑戦とIAEA」

(主催：国際原子力機関(IAEA)、共催：日本国政府・原産協会)

国際原子力機関の50年間の活動と原子力発電と核燃料サイクルの現状を評価するとともに、原子力発電と核燃料サイクルの開発と安全確保、およびその国際協力について将来ビジョンを議論する。

セッション2

4月12日(木) 9:30~12:30

「今後、原子燃料は安定的に供給されるか」

エネルギー安全保障や地球温暖化への有効な対策として、欧米諸国とならび中国やインドを始めとする開発途上国が原子力発電の拡大に傾斜していくことは、必然的な動きである。将来にわたってウラン資源や濃縮の供給能力は、世界の需要を担保しうるか、また、核不拡散を促進しつつ、拡大するニーズに対して燃料の安定供給が将来にわたり確保できるかどうかは、原子力発電の将来を左右する。さらに、供給能力を拡大する観点から極めて重要な燃料のリサイクルが鍵を握っている。

このセッションでは、原子燃料供給者と受領者が、将来の原子燃料市場を展望し、安定供給のあり方について論じるとともに、今後わが国の燃料サイクル事業を安定的に展開するための課題を探る。

議長：秋元 勇巳 (社)日本原子力産業協会 副会長、
三菱マテリアル(株) 名誉顧問

パネリスト：

スティーブ キッド 世界原子力協会(WNA) 戦略・研究部長
モフタール ジャキシエフ カザフスタン原子力公社 社長 (依頼中)
ジェイ セイヤー 米原子力エネルギー協会(NEI) 副理事長
ヴォン フー タン ベトナム原子力委員会(VAEC) 委員長
森本 浩志 電気事業連合会 原子力開発対策委員会 委員長、
関西電力(株) 副社長
モーリス レンダース URENCO 専務取締役

セッション3

4月12日(木) 13:45~16:15

「Locally and Globally——青森が世界の原子力に果たす役割」

青森県には現在、東通原子力発電所および六ヶ所燃料サイクル施設が立地するほか、大間原子力発電所、リサイクル燃料貯蔵施設の建設準備が進められている。このように、同県には、原子力エネルギーの利用技術が、発電、燃料サイクルのほぼ全てにわたり事業として蓄積されつつあり、わが国の原子力立国実現の観点から重要な役割を果たしている。

このセッションでは、原子力エネルギー開発利用の拠点地域(Locally)としての青森県に焦点をあて、各施設の現状等を紹介するとともに、地域の視点を交え、それらのもつ世界的な意義(Globally)について考えることとする。

議長：神田 啓治 京都大学 名誉教授、エネルギー政策研究所 所長

【基調講演】

「世界の中の原子力立国日本——その実現に果たす青森の役割」 (仮題)

望月 晴文 経済産業省 資源エネルギー庁 長官

パネリスト：

蝦名 武 青森県 副知事

岡崎 俊雄 (独)日本原子力研究開発機構 理事長

兒島 伊佐美 日本原燃(株) 社長

末永 洋一 青森大学 総合研究所 所長 教授

榊本 晃章 電気事業連合会 副会長

大会ステートメント

服部 拓也 (社)日本原子力産業協会 副会長

以上

第40回原産年次大会 準備委員会名簿

平成19年1月15日

委員長	遠藤 正彦	弘前大学 学長
委員	越善 靖夫	東通村長
	勝俣 恒久	東京電力(株) 社長
	神田 啓治	京都大学 名誉教授、エネルギー政策研究所 所長
	兒島 伊佐美	日本原燃(株) 社長、(社)日本原子力産業協会 理事
	齊藤 莊藏	(社)日本電機工業会 原子力政策委員会 委員長
	末永 洋一	青森大学 総合研究所 所長 教授
	高橋 宏明	東北電力(株) 社長
	殿塚 猷一	(独)日本原子力研究開発機構 相談役 (2006.12.31 まで理事長)
	中垣 喜彦	電源開発(株) 社長
	中島 悦雄	全国電力関連産業労働組合総連合 会長
	永松 恵一	(社)日本経済団体連合会 常務理事、 新むつ小川原(株) 社長
	林 光男	青森商工会議所 会頭、青森県商工会議所連合会 会長
	葉山 莞児	(社)日本土木工業協会 会長、 (社)日本原子力産業協会 理事
	古川 健治	六ヶ所村長
	榊本 晃章	電気事業連合会 副会長
	向井 麗子	青森県地域婦人団体連合会 会長
	望月 孝一	丸紅(株) 常務執行役員、 (社)日本原子力産業協会 理事
	山地 憲治	東京大学 大学院 工学系研究科 教授、 (社)日本原子力産業協会 理事
オブザーバー		
	佐藤 光彦	青森県 エネルギー総合対策局長
	黒木 慎一	内閣府 政策統括官付参事官
	山野 智寛	文部科学省 研究開発局 原子力計画課長 (2007.1.15~)
	中原 徹	文部科学省 研究開発局 原子力計画課長 (~2007.1.14)
	柳瀬 唯夫	経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 原子力政策課長
	小溝 泰義	外務省 総合外交政策局 軍縮不拡散・科学部 国際原子力協力室長

以上